新人王・滝石潤は健闘むなしく…

小島武夫復活！の決勝進出。

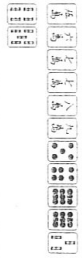
起家・佐々木　飯田　小島　山田

各人の作戦やいかに。佐々木、山田は展開のまぎれなど一切構わず攻勢に出るだろう。とにかく局面をリードすることに意義がある。

プロ側としては勝算を得るには「受けて立つ」打ち方の方がいいだろう。雀鬼会と同じペースで打ちまわすのは五分以上になることはない。まさにデタトコ勝負になる。それが悪いというわけではないが、利口な取り口ではない。

しかし、飯田が強引に勝負に出る。東一局。ドラ[発]

山田は当然先制リーチだ。



飯田の追いかけリーチも否定できないが、その姿勢が一抹の不安をのぞかせる。

行く気だ。ピンフだけでさらりと流して、序盤は相手に好きなように打たせて、ある程度、流れ、展開が出来あがってから攻めるのが、先述の通り。利口でないというのは、序盤で決勝戦の結果を出してしまうということである。

ここはおとなしく流局。しかし、東2局（牌譜2）も飯田はリーチで攻める。しかし、雀鬼会側はひく打ち手ではない。山田もペン[1]で追いかける。飯田の注文は受け付けない。

この局は小島が[南][発]を重ねて、無理のないホンイツ仕掛けで親マンをアガる。仮に、飯田がリーチをかけなければどうなったか。佐々木が[●●]を併せ打つこともなく（断言はできないが）、[●●]を重ねてテンパイを入れた佐々木が[1]をツモ切ることは明白。さらに、小島がドラの[四]ツモで[1]と振り替えることもまた十分。2件リーチでは[1][四]どちらを切るか。それも一歩もひかない勝負となれば、[1]が通ってない段階では点数よりも放銃の可能性の高さの方を重視して、たとえドラであろうとも遠い方の[四]を切る。読者諸君は「さすがプロの

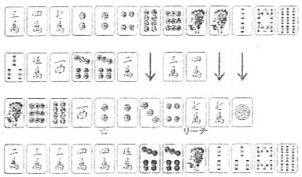
第1回戦 東2局1本場 ドラ[発]

東家・小島武夫

23500
+12000
300
+4000(RI)
39800

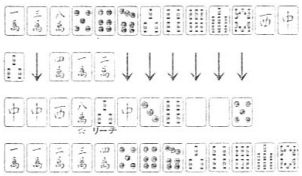
南家・山田英樹

25500
△1000(RI)
24500



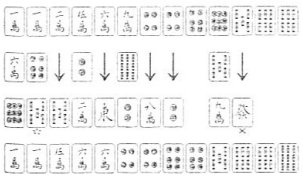
西家・飯田正人

25500
△1000(RI)
24500



北家・佐々木秀樹

23500
△12000
300
11200



だが、ここは小島にとってひけない勝負どころではあるが、半荘、決定戦全体の勝負どころはない。

東2局2本場。さて、飯田は戦法を変更するか。このまま行く気なのか。まず、焦点はここだ。

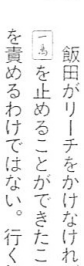
しかし、ここでも小島の先制リーチに対して追いかけリーチ。

小島――（ドラ[九]）

飯田――

ひるむことなく手を進めた山田が親マンを飯田から取る。17巡目であった。

山田――



ロン[一]。

飯田がリーチをかけなければ[一]を止めることができたことを責めるわけではない。行く気になったことが結果的に拙かったのである。最高位戦などでは自力でねじ伏せる麻雀を見せる飯田だが、雀鬼会を相手にねじ伏せるには、少し配慮が不足しまりは雀鬼会に対する認識不足、データ不足である。序盤から五分に戦う必要はなかった。

相手に走らせ、繰り返すが、流れと展開を見てから追い込む形の方が勝算は高い。飯田は分厚い麻雀が打てるのだから、追い込んでも迫力は十分。序盤から五分に叩きあえば、勝てばよいが、つまづけば早くも敗戦が決定的になる。序盤勝負は飯田の利点を失うこととなってしまった。いわば、戦略の失敗である。戦略は雀力如何を問わず、結果を大きく左右する。

そして、東4局、飯田の親、ドラ[四]で

[三]が4枚見えている、俗にいうペン[六]リーチでアガれず。[四]カンの破れかぶれな強引な手作りで絶体絶命の窮地を打破できなかったか。それでもやはりムダな抵抗であったか。いずれにしても飯田はここで敗戦決定とみていいだろう。

持ち点6600。箱近であえぐ佐々木。親の南一局。

4巡目、[中]が出た。なんとか連荘権を取りにポンしてから手をまとめたいと思うものである。が、ここは鳴かない。文章だけでみれば、別に驚くべきことは何もないかもしれないが、実際に自分で打ってみれば、そうもいかないものである。半荘2回の勝負での、この立場での親。この重さに、まだまだ後半の期待が持てた。トータル・トップは苦しいかもしれないが、見せ場はくる。

結論から言えば、局面としての見せ場はやってきたが、佐々木に勝負どころは来なかった。小島に[発]を打って親マンを献上したことが地滑りの発端で、優勝が決定した2回戦東一局からは2着になるまでの見せ場のみ。佐々木の勝負どころは4回戦あたりに待っていただろう。しかし、残念ながら2回戦である。優勝者が決まるまで佐々木に出番がなかったのが今回の最強戦であった。「2着になったのも佐々木のガッツ」という表現もあろうが、飯田が早々に敗退、山田を追いかける小島にメがなくなって、沈滞。佐々木がなるがままに2着になったといった

亜空間殺法・安藤満、気合は十分。

第3回王者・伊藤優孝も攻める。

大ベテラン・灘麻太郎、今回は苦戦。

初出場、荒正義は大マクリに賭ける。

山ちゃん（山崎一夫）は今年も和服姿で…

牌流定石・金子正輝、流れに乗りたい。